

第4学年 道徳「みんなのためにできること」

福岡市立内浜小学校 教諭 床田知子

1. 単元（題材）名「みんなのためにできること」

—「なんでこんなことしなくちゃいけないの？ 日本の学校」外国にルーツをもつ児童へのアプローチ—

2. 単元（題材）の目標

- ・日本の学校で重要視される「みんなのために進んで働くこと」の考えを理解する。（知識・技能）
- ・働くことには、みんなのために役立つという喜びがあること気づき、そのことについて考えることができる。（思考・判断・表現）
- ・働くことの大切さや尊さを知り、今までの生活との相違点や共通点をとらえた上で自分の考えを伝え、自分のできることをしようとする。（主体的に学習に取り組む態度）

3. 単元（題材）について

（1）教材観

本単元（題材）では、外国にルーツをもつ児童に、日本の学校文化の中で重要視される「みんなのために働くこと」について、自国の文化や考えと比較させ、「差異」をおさえた上で自分なりの「共通解」を考えることによって、「自分のこれからの行動」をさぐっていきたいと考える。そのために道徳4年生「みんなのためにできること」を教材として取り上げる。

ここでは、4年生になって何か「みんなのためにできることはないか」を考え、朝20分早く登校し、学校の裏門清掃をしている子どもの体験を扱っている。最初はつらいと思っていた行動が、「だれかのためになっている」という喜びに変わるという内容である。

外国にルーツを持つ児童にとって、日本語とともに学校生活において大きな壁になるのが日本の学校文化「だれかのための」行動を当たり前のように強いられるという経験である。

そこで、彼らの「驚き」や「なぜ？」という気持ちを吸い上げた上で、道徳教材「みんなのためにできること」を読み解くことで、だれかのために行動することは、自分が役立っているという自己肯定感が高まり、喜びにつながるという日本の学校文化への気づきにつながると考える。

（2）児童観

福岡市西エリア日本語指導教室の児童は、他の小学校から週に一度、90分の授業を受けるために他の小学校から通級している。本学校に在籍している児童2名にも週に一度日本語教室で取り出し授業をしており、現在18名を担当している。

この授業では、中国男子児童4年生Kさん（日本語で意思疎通可能。教科学習はサポートが必要。）香港男子4年生Wさん（日本語の理解可能。英語で表現。）、アフガニスタン女子4年生Sさん（ひらがな・カタカナまで読み書き可能。）、5年生中国男子児童Oさん（漢字初期。グーグル翻訳で自分の気持ちを伝えようとする。）、6年生中国男子Rさん（簡単な意思疎通はできる。）を対象にしている。日本語習得状況もバラバラな5名であるが、彼らに日本での学校生活で驚いたこと、疑問に思ったことをアンケートし、日本の学校生活への違和感を汲み取った上で、あえて「みんなのために」を読み

せて感想を聞く。

日本の学校文化と母国の価値観との相違により、日本の価値観に違和感を感じた点については、差異を否定するのではなく、違いを前提に自分の考えを周囲に説明することによって「共に理解」し、その差異を乗り越える意欲が高まるのではないかと考える。

(3) 指導観

本単元(題材)の指導にあたっては、まず、「1、日本の学校に来ておどろいたことはなんですか。(じぶんの国とちがうところ、たとえば、そうじ、きゅうしょくなど)」「2、日本の学校でいいと思うことはなんですか。」「3、日本の学校でいやだなと思うことはなんですか。」とアンケートを取る。このアンケートは、他の外国人児童にも書いてもらう。そのアンケートを集計し、次の授業で掲示する。自分と同じことを考えている友だちがいること、また考えもしなかったような感想をもつ友だちもいるという気づきを持たせた上で、道徳「みんなのために」を読ませる。

日本語習得状況によって、読み仮名をつけたり、ひらがなで読みやすいように書いたり、文章を短くするなど理解しやすいリライト文を使用する。

全文を読んで、正直な感想を書かせる。自分の考えを十分に書くことができない児童にはグーグル翻訳を使って気持ちを説明させる。

日本の学校では、「みんなのために」という考えがあつて、みんな同じようにしないといけないけれども、ほんとうにみんなしたいのかな?それはがまんしてやっているのではないかな?など思っていたことを否定せずに書かせる。

このような児童の考えを受け止めた上で、日本では「みんなのために」行動することで自分を律することもできるし、何よりも周りが喜んでくれることがうれしいという考えがあることを伝える。

「YOU TUBE—にほんのがっこう—」などを視聴し、日本の学校が目標としているものを視覚的に伝える。

さらに、「そうじ」「給食を子どもたちが配る」など他の国では行っていない活動の意味も伝え、今まで「しなければならぬ」ことにも後々自分たちが成長した折に役に立つことがあるということをも具体的に伝える。

今まで学習してきたことから、これから自分が生活の中で「みんなのために」何かできることはないかを考え、文章や絵にする。学級の皆に、「自分の国ではそうじはしない。なぜなら・・・」というように違いを説明するニュースレターを作り、学級に持って帰って発表するのも、違いに目を向ける機会になる。

いろいろな考えがあること、その中で自分は何を取り入れ、どのように実践していくのかという二つ(児童によっては三つ)の文化の間で考え、違いを伝え、できることを実践していこうという意欲を高め、これからの活動につなげていきたい。

(4) ESD との関連

・本学習で働かせる ESD の視点(見方・考え方)

多様性…様々な人種・文化・宗教・考え方をを持った人がいる。

相互性…皆なんらかの関わりをもって生活をしており、相互に影響を与えている。

連携性…学級ひとりひとりつながって生活している。

・本学習で育てたい ESD の資質・能力

多面的・総合的に考える力（システムズ・シンキング）

自分だけの価値観と日本の価値観をすり合わせ、自分のできることをしようとする意欲。

コミュニケーションを行う力

相互を理解するために、自分の気持ちや考えを伝えることができる。

他者と協力する態度

相手のことを尊重して一緒に行動して行こうとする態度が大切である。

つながりを尊重する態度

自分だけでなく、相手とのつながりを重要視する態度。

進んで参加する態度

自分から課題を考え、解決しようとする態度。

本学習で育てたい ESD の価値観

人権・文化を尊重する。（文化多様性の尊重）

それぞれの文化を尊重し、決して自国の文化だけが素晴らしいと決めつけるのではなく、多様な文化のあり方に目を向けることができる。

連携性

みんなで協力すれば大きなことを成し遂げられる。

責任性

責任をもって、自分にできることは自分から進んで行動する。

達成が期待される SDGs

4 教育

17 グローバル・パートナーシップ

4 単元の評価規準

（ア）知識及び技能	（イ）思考力・判断力・表現力	（ウ）主体的に学習に取り組む態度
① 日本の学校で重要視される「みんなのために進んで働く」ことの考えを知り、自分の考えを文章化できる。（日本語でなくとも構わない。）	① 「みんなのために進んで働く」ことの意味を考えた上で、そのことについて自分の意見を持つことができる。	① 決まっていることだから「みんなのために働く」のではなく、それぞれの活動の意味を考え、自分ができるところを考え、活動しようとするところができる。
② 自分で選んだ「じぶんがみんなのためにできること」を絵や文章で表現することができる。	② 日本の学校文化の考え方と、自国の学校文化の考え方を比べ、どちらが優れているかではなく、双方向から視点を持ち、これからの自分の行動を考え、表現することができる。	② 色々な考えがあることを知り、二つの文化・習慣を行き来する自分の立場から気づいたことを周囲に発信しようとしている。

5 単元の指導計画 (全3時間)

次	主な学習活動	学習への支援	評価 (△) 支援 (・)
1	1 日本の学校のきまりについてアンケートについて答え, 自分がふだん感じている違和感に気づかせ, 今後の見通しをつかむ。 ○日本の学校についてのアンケートに答える。 ・日本の学校に来ておどろいたことはありますか。 ・日本の学校でいいなと思うことはありますか。 ・日本の学校でいやだなと思うことはありますか。 2 「みんなのためにできること」を読む。 ○「みんなのためにできること」を読んで「すすんではたらく」ということについて考える。 (どんなことがあるか) ・そうじや係活動など。 ・給食を運ぶ。 ・具合の悪い人を保健室に連れていく。 (はたらいっている時の気持ちは) ・たいへん。 ・めんどくさい。 ・しないともんくをいわれる。 ・ほめられる。 ・やくに立っている。 ・おれいをいわれるとうれしい。 ○「ぼくたち」が前とちがう気持ちでそうじをしようと思ったのは, なぜか。 ・自分がみんなのためになっていると感じて, うれしくなったから。 ○じぶんのしごとのたいせつさについて考えたことをまとめる。 ・みんなのためにと考えるとやる気になる。	○日本の学校について意見や感想を言っている動画や文章を紹介する。 ○みんなの気持ちを知りたいのでアンケートで3つの項目について考えることを知らせる。 ○日本語と同時に英語, 中国語, アラビア語などで質問用紙を作成する。 ○答える時も, 日本語だけではなくグーグル翻訳やボイスレなどを使い, 母語を使っても自分の気持ちをできるだけ言えるようにする。 ○「すすんではたらく」と思うときはどんなときかを想起させる。 ○(例) そうじをしているときのきもちを考えるようにさせる。 ○(例) 給食や係の仕事など, はたらいした経験を思い出し, その時の気持ちを説明する。 ○どうしていやだったのか, またどうしてやる気になったのか考える。 ○「ありがとう」と言われたり, 感謝されたりした時の気持ちを思い出す。 ○お礼を言われた時の気持ちを思い出し, 「ぼく」の気もちをそうぞうする。 ○そうじやかかりのしごと, きゅうしょくなど, じぶんのはたらきが人のためになっていることにあらためて気づき, 考えたことをまとめる。(母語で翻訳アプリを使ってもいい。)	△ア1 (知識・技能) △イ1
2	1「日本の学校についてのアンケート」「みんなのためにできること」から, 日本の	○みんなのアンケートのけっかをみることによって, 「日本の学校でみんなの	△ウ1

	学校でしなければならないことについて自分の考えをまとめる。 ○他の日本語指導教室に来ている友だちのアンケート結果を見て感想を言う。 ・そうじについていやだなと思ったのは同じ。 ・給食を子どもでつぐことにびっくり。 ・みんなといっしょにするからしごもたのしいというのは同じ。 ○「みんなのためにできること」を想起し、「進んではたらくこと」のよさをふりかえる。 ・「みんなのためにはたらく」ことによって、自分もたくさんの人のはたらきによって支えられているということがわかり、自分もみんなのためにはたらこうという気持ちになる。	ためにしていること」が人によって感じ方がちがっていることに気づかせる。そうじを例にしてあげる。 ○各国のそうじについての意識の違いのデーターをわかりやすくしたものを見せる。 ・児童・生徒が掃除を行う国 34.3% ① 自分の使う場所をきれいに保ち、ものを大切にする気持ち ② ひとつのことを他者と協力してやり遂げる協調性 ③ 自分が卒業、進級した後に同じ場を使う他者を思いやる気持ち ・掃除を専門家に任せている国 58.1% ① 学校は勉強する場所だから ② 専門家の掃除の方が効率的 ③ 雇用機会の確保のため ④ その国の掃除観から （「学校清掃その人間形成的役割」 沖原豊編著）	
3	1「みんなのためにはたらく」について自分の考えを絵や文章にまとめる。 ○じぶんの国や学校との習慣のちがいを、学級の先生や友だちに知らせるために、絵や文でニュースレターを書く。 ・自分の国では学校でそうじをしない。 ・そうじをしたら気持ちがいい。 ・自分がしたことが周囲を幸せにする。 ・自分のできることがふえた気がする。 ○ニュースレターは後に集めてパンフレットにすることを伝える。 ○活動のふりかえりをする。 ・自分が納得して、「みんなのためにはたらく」ことをしようと思う。 ・自分の国の学校のきまりを知らせて皆が驚いていたので色々な価値観があることを伝えることができる。	○日本の学校文化を肯定するだけではなく、否定する意見も貴重な考えとして受け入れるようにさせる。 ○そうじをするしないの違いで学校文化の優劣の判断をするのではなく、あくまでも差異をとらえて自分はこう考えるという視点で書かせるようにする。 ○ニュースレターは、母語で書いてもよく、自分の気持ちを伝えることに主眼をおく。 ○いろいろな国のいろいろな学校のようにすを知り、なぜそんなに国によって違いがあるのか、どれが正しい、どれが優れているわけではないということに気づかせる。	△ア② （知識・技能） △イ② △ウ②

がっこうアンケート けっか（１９名中）（ひとりがなんこかいてもいい。）

1. 日本^{にほん}の学校^{がっこう}に来て^きおどろいたことはなんですか。

- ・せんせいがやさしい。（１９名）
- ・べんきょうのしゅるいがたくさんある。（９名）
（たいいく・おんがく・ずこう・かていがあるというのふくまれています。）
- ・そうじがある。（９名）
- ・りょこうやピクニック（えんそく）がある。（６名）
- ・きゅうしょくがある。じぶんたちでくぼる。（５名）
- ・あるいてこないといけない。（３名）
- ・しゅくだいがすくない（３名）
- ・かんしする人がすくない（２名）
- ・かかりのしごとがある。（１名）
- ・おやのおくりむかえがない（１名）

2. 日本^{にほん}の学校^{がっこう}でいいなと思うことはなんですか。

- ・せんせいがやさしい。（おこるとこわいけど。）（１９名）
- ・あそびのじかんがある。（やすみじかんがある。）（８名）
- ・おんがく・たいいく・ずこう・かていがある。（７名）
- ・きゅうしょくがある。おいしい。（５名）
- ・しゅくだいがすくない。（３名）
- ・さんすうのべんきょうがかんたん（３名）
- ・ともだちがやさしい。めんどうをみてくれる。（３名）
- ・べんきょうじかんがすくない。じぶんのくには１，２年生でも７じかんです。（２名）
- ・日本の学校がいろいろな教科があつてすべて子どもに役立つ。（１名）

3. 日本^{にほん}の学校^{がっこう}でいやだなと思うことはなんですか。

- ・いやなことはない。ぜんぶオッケー（１４名）
- ・なまえや、かみのことでいやなことをいわれた。（でも、せんせいがものすごくおこってくれた。）
（１名）
- ・おんなのことなかよくしていたら、ラブラブといわれる。（１名）
- ・じぶんだけ かかりのしごとをしないでいいといわれて、とてもいやだった。（１名）
- ・グループでかつどうするとき、いっしょのグループになったら「あーあ。」といわれた。（１名）
- ・イエスカノーかはっきりしない。（１名）

「そうじについて（中国から男子5年生）」

4年生のとき、日本にきて、ぼくはそうじがいやだった。せんせいがこくばんのまえのほうきをしてねといったので、ほうきはもったけど、そうじはしていなかった。もんくをいわれてけんかになったこともある。せんせいは、ぼくがなれるまでかんたんなまどふきをしてといった。それもしなかった。そうじをしないでかくれていたこともある。せんせいは、中国では学校でそうじをしないところもあるとみんなにいつてくれた。それはほんとうです。でも、いまはそうじをしている。まいにちみんなしているし、やってみてなれてきた。おかあさんは、それならいえでもそうじをなささいというけれど、いえではしていない。ぼくは、そうじはあまりじょうずではないけれど、みんなでそうじをすることはいいとおもう。ただ、ぼくよりもそうじをしていないともだちもいる。いいことだから、みんなでそうじをしていこう。

にほんの学校について、ともだちとけんかをするけれど、それいがいい、わるいところはない。

にほんの学校は、こどもにやさしいとおもう。

そうじについて みんなへ

（なぜそうじをするのだろう）。

・きまっているから。・しないとおこられる。→みんなのために　じぶんがすっきりするため

（そうじをしてよいこと）

・きれいになる。・ほめられる。・みんなできょうりよく・いえでもしよう。

（そうじをしよう）

・いつもきれい　・じぶんがしたことがまわりのために　・ともだちときょうりよく

・かんしゃのきもち

「やすみじかんとかかりのしごとについて（中国男子6年生）」

にほんのがっこうで、いちばんいいところは、ひるやすみ、そとであそぶことができることです。まえ、ぼくたちは、ひる、かならず30ふんひるねをしなければだめでした。ともだちとはなしをすると、せんせいにおこられました。それをいうと、にほんごのせんせいから「ひるねは、あたまにいいからしていたのよ。にほんのがっこうでもしたらいいね。」といったけど、ぜったいにやめてほしい。そとで45ふん、あそべるなんてしあわせです。ひるねよりあそびです。

みんなは、やすみじかんにあそべるから、たのしくなかよくあそぼう。

しかし、たのしいやすみじかんをとられるのが、いいんかいかつどうです。ぼくは、しいういいんかいです。うさぎのふんをとる、そうじ、みずやり、えさやりはたいへんです。でも、わすれたらうさぎがかわいそうです。さいしょは、「あそべない。いやだー。」とおもっていたけど、あついとき、さむいとき、うさぎのことがとてもきになります。あそびはすきだけど、うさぎのこともきになります。いまは、ともだちといっしょにはやくそうじをして、あそぶじかんをながくしています。

かかりのしごとについて（アフガニスタン女子4年生）

わたしはおてつだいが好きです。だからせんせいのおてつだいかかりをしています。せんせいヘルパーです。プリントをはこぶと、せんせいが「ありがとう。たすかります。」といってくれます。いえでもしています。わたしは、まえ（アフガニスタン）では、がっこうにいていなかったの、にほんのがっこうがだいすきです。べんきょうをがんばって、せんせいになりたいです。

がっこうでみんなとあそぶのがだいすきです。べんきょうもだいすきです。



（成果と課題）

○言葉もわからない中で学校生活を送っている子どもたちへのアンケートだったが、想像していたより子どもたちは日本の学校生活（そうじ・給食の配膳・係の仕事）に良さを感じていることが伝わってきた。また、子どもたちに話を聞いたり、ニュースレターを書いていたのを見ていると、自分の変容や頑張りに成長を感じていることがわかった。

○子どもたちが、学校の先生や友だちにサポートされ、日本の学校生活になじんでいる姿を見ることができた。子どもたちの柔軟な感性と周囲の細やかなサポートの事例に触れることができた。

●「みんなのために」という観念が外国にルーツを持っているから違和感があるであろうという仮説自体が偏見だったのではないかという考えにいたった。子どもたちは、もともとそうじや給食配膳など個々の活動に違和感があるのではなく、はじめての活動だから違和感があったということが伝わってきた。慣れないうちはたいへんだったけれど、だれかのためにはたらいっている充実感が個々の感想から感じられた。

●アンケートについては、その子の日本語能力によって文章を書く、または、翻訳機を使って聞き書きをしていったが、日本の学校生活に満足していると答えがほとんどだった。しかし、もし日本語もしくは母国語で不自由なく表現できるとしたら、また要望が出やすいような授業の仕組みをつくっていたら、もっと本音や要望が出たのではないと思われる。

●社会科見学や修学旅行前にアンケートを実施したので、そのことに触れた感想をアンケートでは聞くことができなかった。その活動以降に集団生活について聞いたら、また違ったのではないと思われる。

小学4年

現在の学年終了時に目指す姿

自分が何を受け入れ、何に違和感を感じるか考え、日本の学校文化との相違点と共通点に気づき、違いを前提にして得た自分の考えを周囲に発信していくことができる。



なんで日本の学校はみんなですみそをそろえなければならぬの？

なんで日本の学校はそうじや給食などみんなのために働かなければならぬの？

学級活動「みんながきもちよく生活するために」

そうじや給食の用意、片付けなどをみんなで協力してすることの大切さを理解する。ただ仕事をするだけではなく、自分の居場所をきれいに整えものを大切にする気持ち、協力する力、思いやりが育つことに気づく。

特別な教科指導（日本語指導）

「わたしの国をしょうかいします。」
□自分の国の自然、文化、食べ物、学校生活など友だちに教えたてことを絵や写真、動画、また具体物を用いて紹介することができる。

道徳の時間「みんなのためにできること」

○主に養いたい ESD の資質・能力
多面的・総合的に考える力（システムズ・シンキング）
今までの自分の価値観と日本の価値観の相違点と共通点に気づき、自分の行動を選ぶことが大切である。

コミュニケーションを行う力

相互理解のために、日本語が十分でなくても、色々な方法やサポートを使って自分の気持ちや考えを伝えることができる。

○主に育てたい ESD の価値観
人権・文化を尊重する。（文化多様性の尊重）
それぞれの文化を尊重し、決して自国の文化が素晴らしいと決めつけるのではなく、多様な文化のあり方に目を向けることができる。

いろいろな点が違うけど、どの文化にもすばらしさがある。ろ

総合的な学習「みんながにこにこできる町に」

□生活をするのに不便に思っている人たちがいる。どんなことに困っているのだろう。また、どんな町にしたらくらしやすくなるのだろう。わたしたち今できること、これからできることはなんだろう。

社会科見学（大宰府や小石原見学）

日本の伝統的な場所や工芸品に触れることによって日本特有の文化に触れるとともに普遍的な文化の素晴らしさを感じることができる。

日本の伝統的な文化と同じような伝統的な文化が母国にもある。紹介したいなあ。